～ふくしまの歴史と文化財～

文字摺通信

第　１２１　号
２０２６年１０月　１日
発行:文字摺歴史文化社

＝明治１４年・１５年、激震の福島県＝

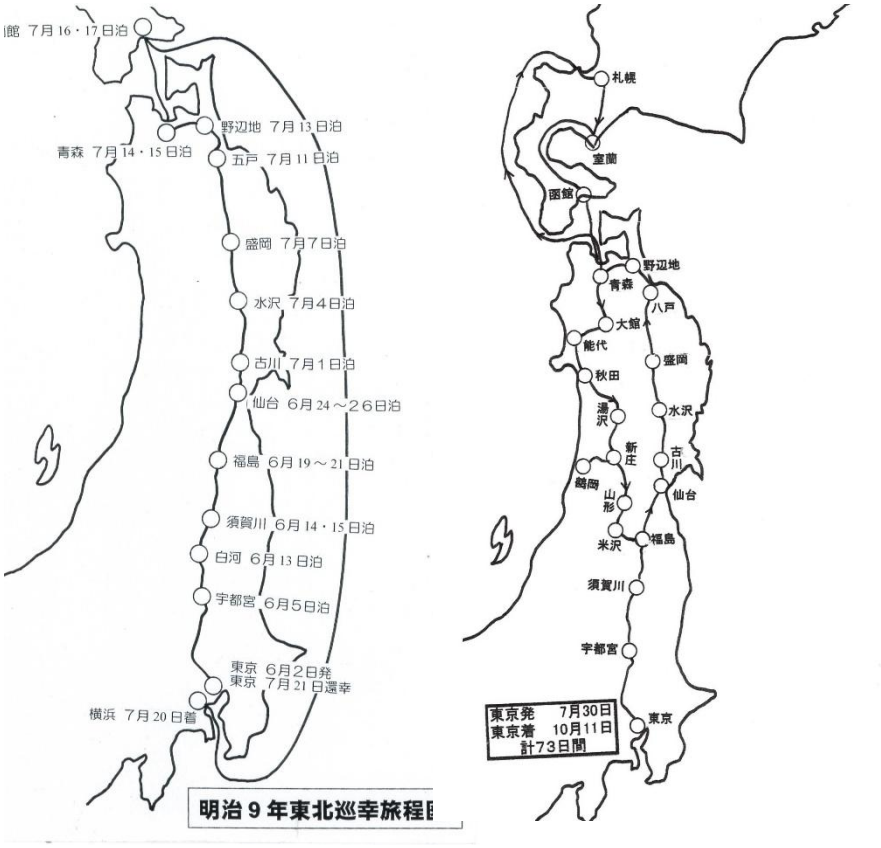
有栖川宮若松「代巡」の意味

明治５年(1872)～同 18 年（1885）まで六大巡幸といわれる明治天皇の全国巡幸が行われる。この時期は、士族の反乱と自由民権運動が吹き荒れていた時期で、この巡幸は、そうした反政府運動に対する民衆緩和策であった。

明治天皇六大巡幸

1	近畿・中国・九州巡幸	明治５年５月～７月	1872
2	東北巡幸	明治９年６月～７月	1876
3	北陸・東海道巡幸	明治11年８月～11月	1878
4	中央道巡幸	明治13年６月～７月	1880
5	東北・北海道巡幸	明治14年７月～10月	1881
6	山陽道巡幸	明治18年７月～８月	1885

東北地方には、明治９年と同１４年の２度来ている。その行程図である。左図でわかるように、明治９年の巡幸では、東北の背梁山脈の東側だけがルートになっている。戊辰戦争からまだ９年である。「朝敵」藩の庄内藩・会津藩はルートから外れている。明治１４年の右図を見ると、この段階では鶴岡と酒田が巡幸地に入っている。明治政府との距離の差であろう。旧庄内藩では、「天敵」のはずの西郷隆盛を敬う空気が満ちていたことの現れであろう。それに対して、会津は、まだ「薩長」政府にとっては、気を許せない場所だったのだろう。



しかし、明治１４年、巡幸中、福島県令山吉盛典の許に、北会津郡若松北小路町の士族　町野主水から、「聖上当県下を御通輦に際会し、吾若松へ御臨幸あらせらるれは一視同仁の徳沢を永く後世に感載し、若松人民の幸福是より甚しきものなし、冀くは若松人民の切情を察せられ、御臨幸あらせられんこと俯て奉請願候」という請願書が出された。

町田主水は翌明治 15 年（1882 年）６月、諏訪伊助、辰野宗治と連名で会津帝政党を設立、